

2006年度中間期 決算説明会

富士フイルム ホールディングス株式会社
2006年10月31日



本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

2006年度中間期 連結業績

■ 業績概要

(単位:億円)

	2006年度 中間		2005年度 中間		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
売上高	100.0%	13,520	100.0%	13,035	+485	+3.7
営業利益①	6.9%	927	5.2%	678	+249	+36.7
構造改革費用		420		78	+342	-
営業利益②	3.8%	507	4.6%	600	-93	-15.4
税引前利益	4.2%	566	4.9%	635	-69	-10.9
当期純利益	1.8%	238	2.5%	331	-93	-28.1
設備投資*		671		903	-232	-25.7
減価償却費		1,099		1,046	+53	+5.1
研究開発費	6.7%	906	7.1%	923	-17	-1.9
為替:米ドル		115円		109円		+6円
ユーロ		145円		136円		+9円

* 有形固定資産のみ。(ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く)

■ 構造改革の進捗

2006年度中間期 構造改革費用

(単位:億円)

内容別内訳	2006年度中間期 構造改革費用		事業セグメント別内訳	2006年度中間期 構造改革費用	
	第2四半期	中間期		第2四半期	中間期
資産関連他	131	286	イメージング	89	298
人員関連	15	134	インフォメーション	57	122
構造改革費用 計	146	420	構造改革費用 計	146	420

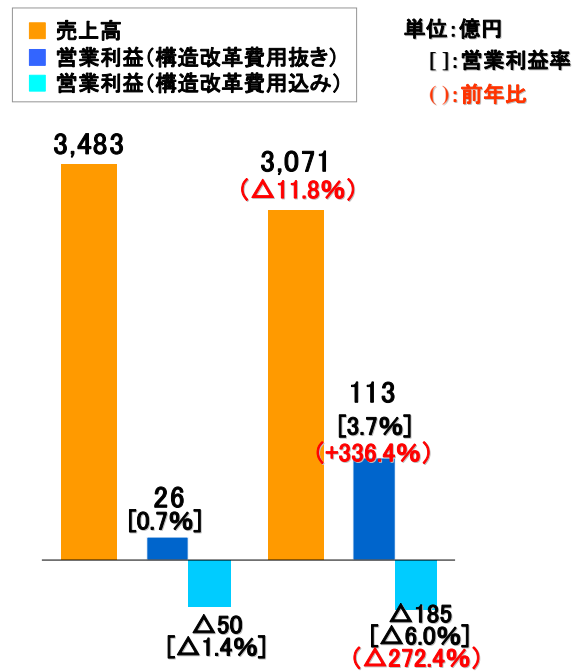
- 資産関連他
固定資産の加速償却等
- 人員関連
特別退職金等

構造改革は順調に進展し、
計画通り当年度に完了の見通し

事業別セグメント情報

■ イメージング ソリューション

売上高*・営業利益



*セグメント間取引消去後

業績のポイント

売上高

売上高:3,071億円(前年比 △11.8%)

- カラーフィルム、カラーペーパーのシェアアップにより、売上のダウン幅を抑制。

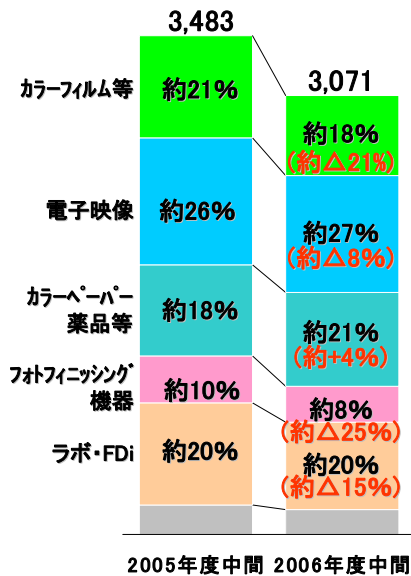
営業利益

構造改革費用抜き 113億円(前年比 +336.4%)
構造改革費用込み △185億円(前年比 △272.4%)

【事業別ハイライト】

売上構成比 (対前年増減率)

単位: 億円



カラーフィルム

- フィルム市場の縮小傾向の中、競合他社の市場撤退の影響もあり、市場シェアを徐々に拡大。

電子映像

- 当社中間期のデジカメ販売数量は、ワールドワイドで、320万台。国内: FinePix「F30」「Z3」が販売好調。海外: 北米市場を中心にエントリーモデルで競争が激化。

カラーペーパー・薬品等

- フィルムの需要後退の影響を受けるも、デジカメプリント市場の拡大によりシェアアップ。

フォトフィニッシング機器

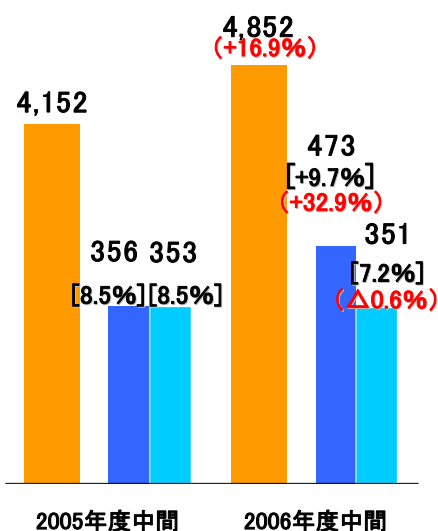
- 新規需要が低調に推移し、デジタルミニラボの販売が減少。

■ インフォメーション ソリューション

売上高*・営業利益

- 売上高
- 営業利益(構造改革費用抜き)
- 営業利益(構造改革費用込み)

単位: 億円
[]: 営業利益率
(): 前年比



*セグメント間取引消去後

業績のポイント

売上高

売上高: 4,852億円 (前年比 +16.9%)

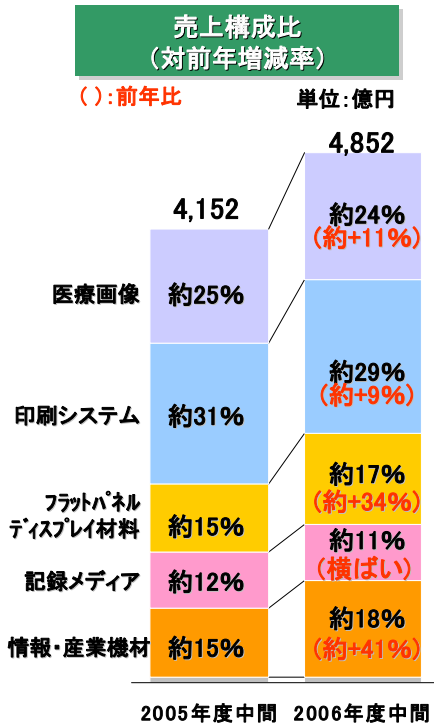
- フラットパネルディスプレイ材料の売上が引き続き大幅に拡大。
- 内視鏡や医用画像情報ネットワークシステムSYNAPSEの販売拡大。
- GTP化の進展と市場シェアアップにより印刷CTPプレートが大幅に売上増。
- 前年度後半に買収した連結子会社の売上が寄与。

営業利益

構造改革費用抜き 473億円 (前年比 +32.9%)

構造改革費用込み 351億円 (前年比 △0.6%)

【事業別ハイライト】



医療画像

- 海外を中心に、FCR、ドライイメージャー、ドライフィルム等の販売が拡大。
- 米国でCR方式として世界で初めてFDAのPMA認可を取得したFCRマンモグラフィの販売を開始し、引き合いは堅調。
- 内視鏡は北米・日本を中心に着実にビジネスを拡大。

印刷システム

- CTP化の進展の影響により、CTPシステム関連の販売が好調。
- アルミの高騰により、ワールドワイドで印刷材料の値上げを推進中。

フラットパネルディスプレイ材料

- 液晶ディスプレイ市場の需要は依然旺盛で、フジタックの販売が好調。
- 更なる需要増に対応し、2006年10月、富士フイルム九州(株)のフジタック製造用第1工場を計画通り稼働。

記録メディア

- データメディア分野は大容量のLTO Ultrium 3とIBM社「3592」向けテープが販売好調を維持。

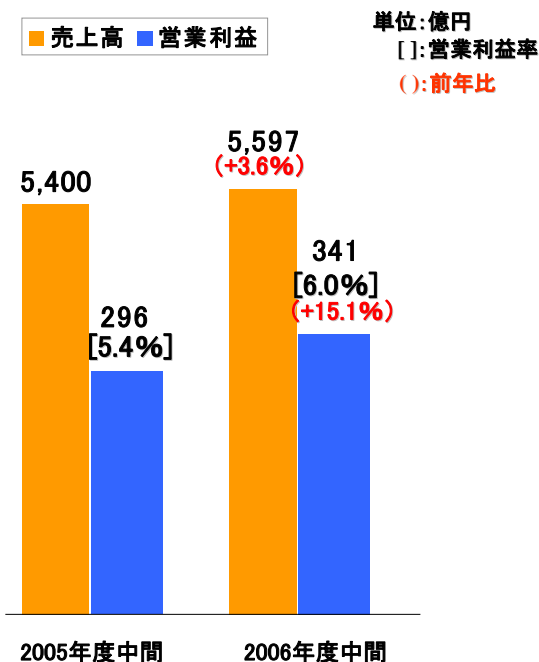
情報・産業機材

- カメラ付携帯電話用レンズユニットの供給が拡大したほか、2006年FIFAワールドカップ™™イッ大会の影響でTVカメラ向けレンズ販売が大幅に増加。
- インクジェットプリンター向けインク材料ビジネスを展開する新規連結子会社FUJIFILM IMAGING COLORANTS LIMITEDの売上を計上。

LTO Ultriumは、IBM社、Hewlett-Packard社、Quantum社の米国及びその他の国における登録商標です。 ⁶

■ ドキュメント ソリューション

売上高*・営業利益



*セグメント間取引消去後

業績のポイント

売上高

売上高: 5,597億円 (前年比 +3.6%)

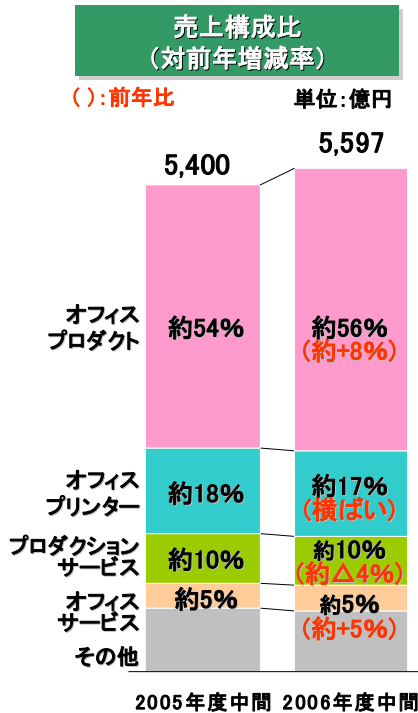
- カラー複合機の販売が欧米向け、アジア・中国地域を中心に大幅増収。
- 欧米向けのモノクロレーザープリンターが販売増。

営業利益

営業利益: 341億円 (前年比 +15.1%)

- 海外販売力増強等に伴って「販売費・一般管理費」が増加するも、販売増と生産性改善施策で吸収し、増益を達成。

【事業別ハイライト】



オフィスプロダクト

- 国内においてはApeosPort- IIシリーズのラインアップを強化。また、DocuCentre G2100を発売し、低価格・高付加価値ニーズに対応。
- 欧米向け輸出とアジア・中国地域でカラー機が引き続き好調を維持。

オフィスプリンター

- 国内はOEM供給先の在庫調整の影響を受け、販売台数が減少。
- 欧米向け輸出において、OEM向け中速のモノクロ機の販売が増加。カラー機は低価格高生産性の新商品が販売増に寄与。

プロダクションサービス

- 大型プリンティングシステムは、前年同期に大口ユーザーの設置があり減収。
- 国内の拡販に向けモノクロPODシステム製品のライアップを強化。

オフィスサービス

- ドキュメントアウトソーシングビジネスが引き続き伸長。
- 戸籍電子文書管理システムは前年同期の納入の特需により減収。
- 会社法や日本版SOX法に対応し、内部統制ビジネスの専門営業組織を新設しサービス事業拡大を推進。

VISION75 (2006) 進捗状況

■ 成長・新規事業分野の拡大

フラットパネルディスプレイ材料

富士フイルム九州(株)第1工場が2006年10月に稼働。約700億円かけて第2・第3工場を建設し、「フジタック」の生産能力を2008年8月には、580百万㎡/年にまで引き上げる計画。

上海にカラーフィルター製造会社を合併で設立し、急成長する中国液晶市場においてカラーフィルター事業を強力に推進。

インクジェット用材料

産業用インクジェットプリンター用ヘッドのトップメーカー米国Dimatix(ダイマティックス)社を買収。

医療画像/ライフサイエンス

(株)第一ラジオアイソトープ研究所を買収し、メディカル事業を核医学画像診断・放射性治療薬領域へ拡大。

機能性スキンケア化粧品「fci」、機能性体内ケア食品「fci」を発売し、ヘルスケア分野に参入。

研究開発の強化

富士フイルムグループのR&Dの中核基地となる「富士フイルム先進研究所」が4月に発足。

富士ゼロックスの新研究開発拠点を横浜みなとみらいに開設することを決定。研究開発拠点の集約による研究開発効率の改善、組織間連携の強化による技術総合力発揮を目指す。

■ 持株会社制への移行 ~ 新体制が目指す効果

● コラボレーション領域の拡大



富士フイルムと富士ゼロックス両社の強みを組合せ、材料/デバイスからシステム、ネットワークまで幅広いソリューションの構築が可能

● 贅肉を削ぎ落とし筋肉質な企業体質の実現

販売費および一般管理費・研究開発費・製造費用の効率化・重点使用化

ターゲット

2009年度 SG&A比率 **20%台前半**
(2005年度実績 27.6%)

2006年度 業績見通し

(単位:億円)

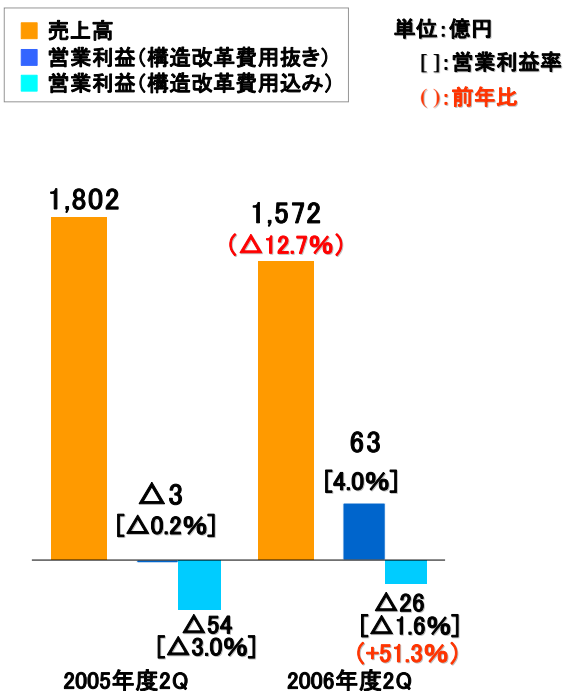
	2006年度 (予想)		2005年度 (実績)		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
売上高	27,400	100.0%	26,674	100.0%	726	+2.7
営業利益	800	2.9%	704	2.6%	96	+13.6
税引前利益	800	2.9%	796	3.0%	4	+0.5
当期純利益	380	1.4%	370	1.4%	10	+2.7
為替 : 米ドル	113円	下期計画 110円	113円		-	-
: ユーロ	140円	135円	138円		+2円	-
構造改革費用	790		860		-70	-

■ 構造改革費用精査による2005年度中間期リステート (単位:億円)

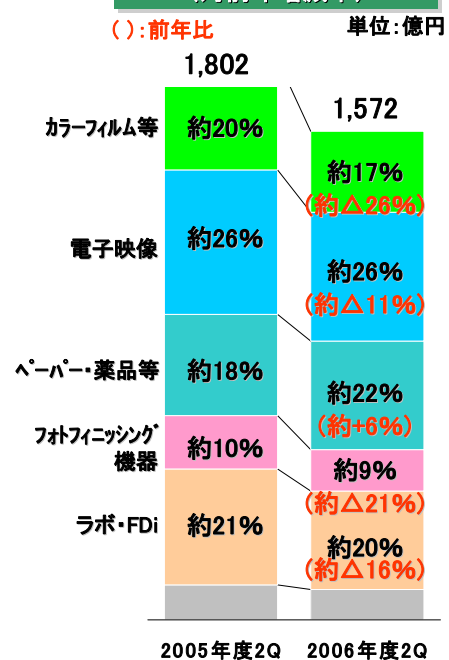
	リステート前 '05年10月31日開示		リステート後 '06年10月31日開示	
売上原価		7,091		7,029
レンタル原価		758		758
売上原価	60.2%	7,849	59.7%	7,787
売上総利益	39.8%	5,186	40.3%	5,248
SG&A	28.1%	3,663	28.0%	3,647
R&D	7.1%	923	7.1%	923
構造改革費用	-	-	0.6%	78
営業費用	35.2%	4,586	35.7%	4,648
営業利益	4.6%	600	4.6%	600

■ イメージング ソリューション 第2四半期

売上高*・営業利益



売上構成比
(対前年増減率)

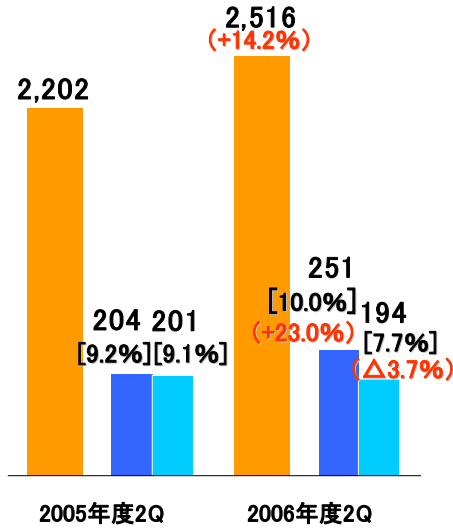


■ インフォメーション ソリューション 第2四半期

売上高*・営業利益

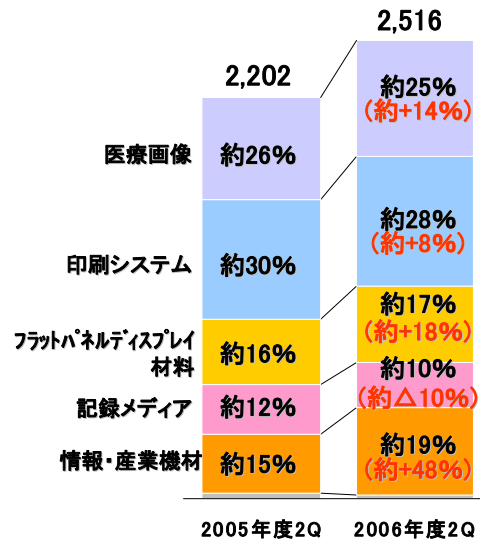
■ 売上高
■ 営業利益(構造改革費用抜き)
■ 営業利益(構造改革費用込み)

単位: 億円
 []: 営業利益率
 (): 前年比



売上構成比
(対前年増減率)

(): 前年比 単位: 億円



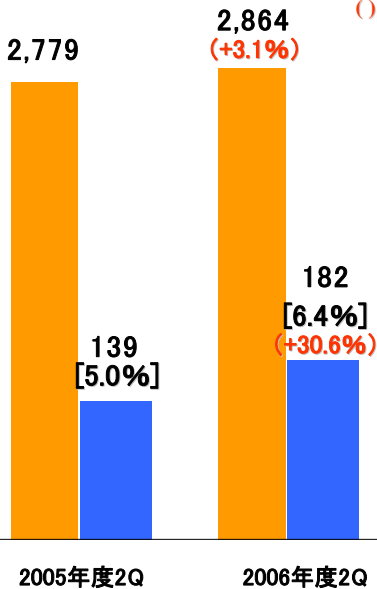
*セグメント間取引消去後

■ ドキュメントソリューション 第2四半期

売上高*・営業利益

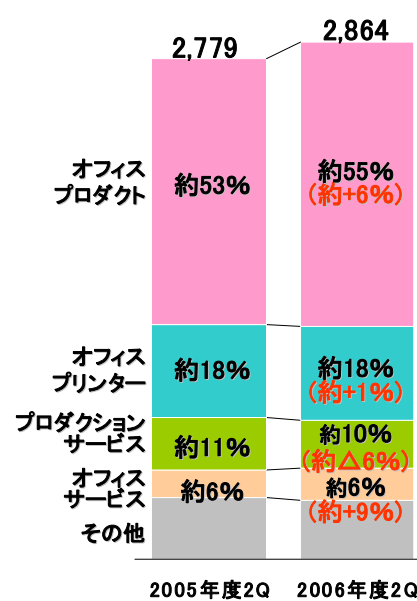
■ 売上高 ■ 営業利益

単位: 億円
 []: 営業利益率
 (): 前年比



売上構成比
(対前年増減率)

(): 前年比 単位: 億円



*セグメント間取引消去後

■ 有形固定資産の設備投資額*

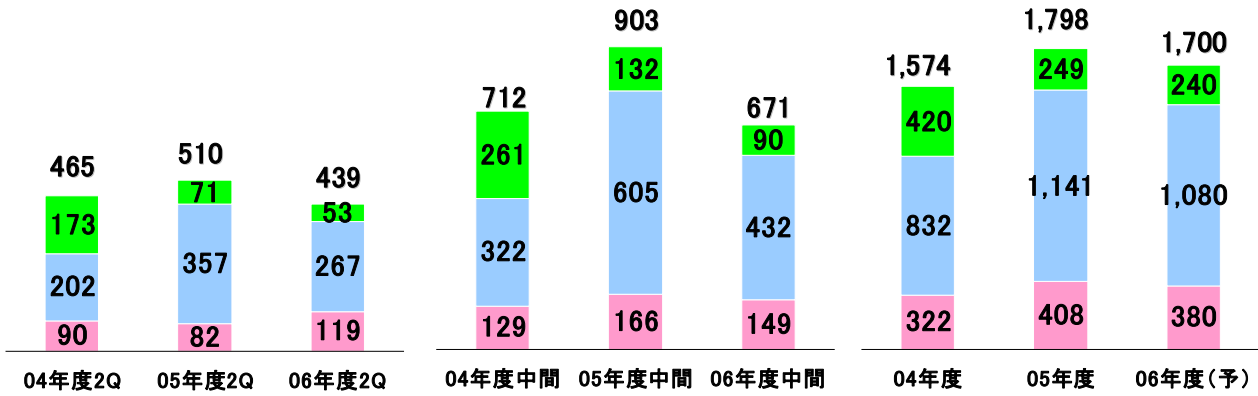
(単位:億円)

第2四半期

中間期

年度

- イメージング
- インフォメーション
- ドキュメント



※ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

■ 減価償却費

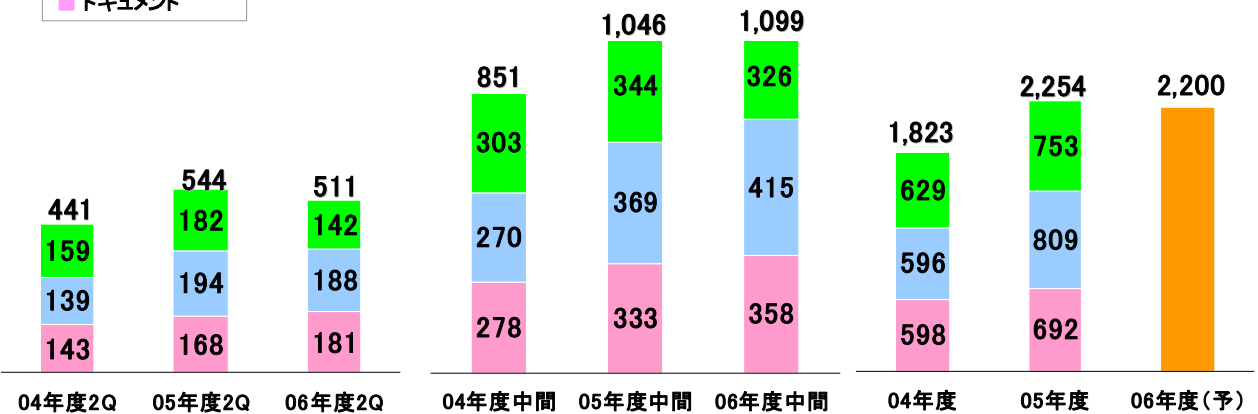
(単位:億円)

第2四半期

中間期

年度

- イメージング
- インフォメーション
- ドキュメント



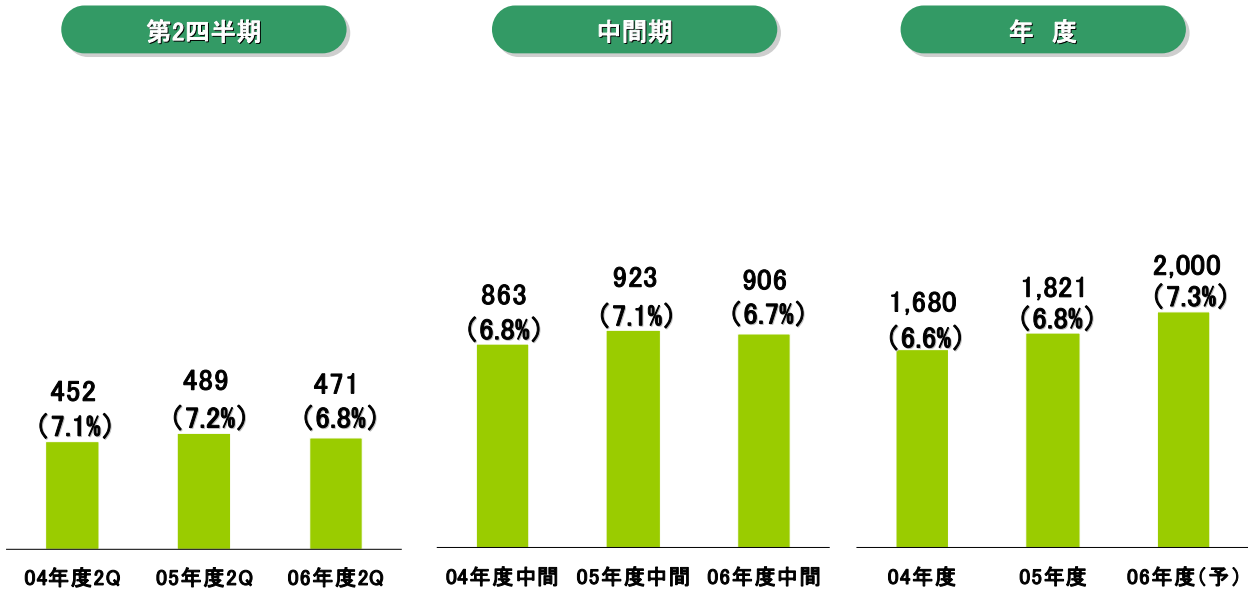
有形固定資産*の減価償却費 (単位:億円)

04年度2Q	320	383	282	04年度中間	606	691	757	04年度	1,304	1,569	1,500
--------	-----	-----	-----	--------	-----	-----	-----	------	-------	-------	-------

※ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く

■ 研究開発費

(単位:億円)



(%)は、売上高に対する研究開発費の比率

■ 為替、人員、株主構成

● 為替

(単位:円)

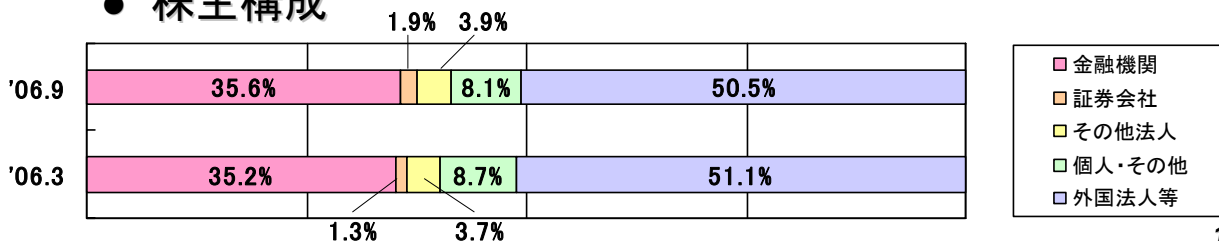
	2006年度					2005年度				
	上期		下期 (予)	年度 (予)	上期		下期	年度		
	1Q	2Q			1Q	2Q				
米ドル	115	116	115	110	113	108	111	109	117	113
ユーロ	143	147	145	135	140	136	135	136	140	138

● 期末人員

(単位:名)

	2006.9末	2006.6末	2006.3末	2005.12末	2005.9末
単独	8,424	8,703	9,163	9,106	9,144
連結	78,411	77,479	75,845	75,606	76,430

● 株主構成





わたしたちは、先進・独自の技術をもって、
最高品質の商品やサービスを提供する事により、
社会の文化・科学・技術・産業の発展、
健康増進、環境保持に貢献し、
人々のクオリティ オブ ライフのさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 IR室

<http://www.fujifilmholdings.com>

本資料は、カラーオンデマンド・パブリッシングシステム「Color DocuTech 60」で印刷しております。